

はじめに

少子高齢化、世帯の縮小化、生活困窮の深刻化、生活課題の複合化・複雑化等が進んでいる状況において、高齢者等が尊厳を保持したその人らしい生活を継続できるよう、医療、介護、介護予防、住まい及び日常生活の支援が包括的に確保される体制である、地域包括ケアシステムの構築が推進されてきました。この地域包括ケアシステムを構築するための重要な一つの方法として、地域ケア会議の活用が求められています。

介護保険制度の開始前から、地域ケア会議は在宅介護支援センター等によって地域の实情に合わせて活用されてきました。このような実績を踏まえ、2012（平成24）年3月に「地域包括支援センターの設置運営について」において、地域包括支援センターの包括的・継続的ケアマネジメント支援業務と多職種協働による地域包括支援ネットワーク構築に、地域ケア会議が位置づけられました。その後、介護保険法において包括的・継続的ケアマネジメント支援業務の効果的な実施のために位置づけられ、その設置の努力義務が定められました。

このように、地域包括ケアシステムの構築のために効果的な活用が期待されている地域ケア会議ですが、それができている市町村ばかりとは限らないのが現状です。なかでも、政策形成機能を果たすことができていない市町村は多く、日本総合研究所（2020）「令和元年度 老人保健健康増進等事業 地域ケア会議に関する総合的なあり方検討のための調査研究事業報告書」によると、「地域ケア個別会議で検討した事例から抽出・整理した地域課題をもとにした政策形成」に特に取り組んでいない市町村は30%近くになっています。

このような課題認識のもと、本委員会では『政策形成につなげる地域ケア会議の効果的な活用の手引き』を作成しました。作成にあたっては、地域ケア会議の目的や機能等を十分にご理解いただいたうえで、地域包括支援センターとともに、わがまちの地域ケア会議の課題を明確にして、それに対応し、市町村の実態に即した政策を形成できるよう地域ケア会議を活用するには、政策形成の主体である市町村職員の方々に何をどのように伝えればよいのかについて検討を重ねました。

その際、地域ケア会議を活用し、その課題に対応してきた市町村職員や地域包括支援センター職員等の委員の経験をもとに議論しまとめることで、実際に活用できる手引きになるように心がけました。なかでも、地域ケア会議を活用した政策形成のプロセスを示した動画は、文章では伝えることができないやりとりなど、詳細なイメージもご理解いただける内容になっているのではないかと思います。

医療と介護の需要はますます高まっていく一方で、それを提供する人材不足はますます深刻になっています。これまで以上に、高齢者個人への支援の充実と地域包括ケアシステムの構築を同時に推進していく地域ケア会議の効果的な活用が求められています。本手引きが、市町村はもとより、地域包括支援センター等、地域ケア会議に関係するすべての皆さまのお役に立ち、ひいては地域の実態に即した地域包括ケアシステムの構築に寄与できれば幸いです。

2023（令和5）年3月

地域ケア会議の効果的な運営の推進に関する調査研究委員会

本手引きの構成

本手引きは以下の内容で構成しています。

- 第1章(1～4ページ):地域ケア会議の目的・機能を再確認できるように簡潔にまとめています。
- 第2章(5～28ページ):地域ケア会議の活用において、多くの市町村や地域包括支援センターが難しいと感じていると考えられる困難を11あげて、それぞれの困難を解決するためのポイントを50個にまとめています。
なお、本手引きは政策形成につなげる地域ケア会議の活用に着目していますが、それを実現するためには地域ケア会議の運営に関するあらゆることが関連してくるため、地域ケア会議の運営全般における困難を網羅しています。
- 第3章(29ページ):4つの市町村の実際の地域ケア会議の活用について、困難の解決のプロセスにおけるターニングポイントを示しながら、具体的な取組みを紹介しています。
- 地域ケア会議を活用した政策形成のプロセス(63ページ):ある市町村の実践をもとに、地域ケア会議の運営の課題に気づき、それを見直し、政策形成へとつなげていった実践事例の動画を作成しています。

第3章の事例及び地域ケア会議を活用した政策形成のプロセスについては、第2章で説明している「地域ケア会議の活用における困難を解決するポイント」の何が該当しているのかについても示しています。
- 【「地域ケア会議の活用における困難と解決のためのポイント」と事例の相関表】(ivページ):第3章で紹介した事例及び地域ケア会議を活用した政策形成のプロセスが、第2章で説明する11の困難とその解決のための50のポイントのどれに該当しているのかを示しています。
- 【地域ケア会議の活用における困難を解決するためのポイント一覧(チェック表)】(viページ):第2章で示した50のポイントをチェック表としてまとめています。

本手引きの活用方法

本手引きは、地域ケア会議を運営するにあたって、次のような困難を感じている市町村職員、地域包括支援センター職員をはじめとする、地域ケア会議にかかわるすべての人に活用いただけるように作成しています。

- ・地域課題の解決に向けた政策形成ができない
- ・地域課題の解決につなげられない
- ・ケースの蓄積から地域課題を把握できない
- ・わがまちの地域ケア会議の体系ができない
- ・地域ケア会議が機能していない理由がわからない
- ・地域ケア会議が機能していないが、どうしてよいかわからない

本手引きは、さまざまな方法で活用することができますが、ひとつの活用方法を以下に提案します。

ステップ1

第1章で地域ケア会議の目的と機能を確認しましょう。

ステップ2

地域ケア会議の活用における課題が認識されている場合

課題に該当する困難について、第2章で確認しましょう。

地域ケア会議の活用における課題を明確にしたい場合

相関表 (iv ページ) に記載の 11 の困難から、わがまちに該当すると考えられる困難を把握し、第2章で確認しましょう。

地域ケア会議の活用のあり方を総点検したい場合

チェック表 (vi ページ) を使用して、できていないポイントについて、第2章で確認しましょう。

ステップ3

わがまちの困難やその解決のためのポイントに該当する第3章の事例を、相関表 (iv ページ) をもとに探し、どのように取り組んでいけばよいのかを理解しましょう。

なかでも、政策形成のプロセスについては、事例動画を確認して、どのような点に留意しながら取組みを進めていけばよいのかを理解しましょう。

ステップ4

ここまでの理解をもとに、わがまちの地域ケア会議の活用における課題は何で、それに対してどのように対応していくのかについて、市町村と地域包括支援センター等で検討しましょう。

詳しくは、以下の【手引きの活用方法】の動画をご視聴ください。

【『政策形成につなげる地域ケア会議の効果的な活用の手引き』の活用方法】

<https://www.youtube.com/watch?v=ZzOYLzhgaUI>

